

「臨床環境医学」投稿規定

編集方針

臨床環境医学「Japanese Journal of Clinical Ecology」は生活環境（住宅、食物、衣料、大気、水などを広く含む）に起因および影響される臨床疾患の予防、病態解明、診断および治療などに係わる基礎ならびに臨床医学的な研究論文ほか、健康影響を視野にいれた生活環境の解析や改善などに関連する建築工学、生命科学を含む幅広い学際的な研究に対する論文を受け付ける。

1. 本誌は臨床環境医学に関する総説・原著・症例報告・短報・講座などの範疇の論文を受け付ける。他の雑誌に投稿されておらず、またその予定のないものとする。
2. 論文は会員による著述とする。原則として筆頭著者、対応責任者（Corresponding author）を含め全員が会員であること。
3. 投稿論文の採否は編集委員会が決定する。
4. ヒトを対象とした研究などは、ヘルシンキ宣言およびこれに準拠した倫理規定に従い実施されていることが必須である。原則として所属施設の倫理委員会等の許可を得たこと、インフォームドコンセントが得られたことを論文中に記載する必要がある。動物を取り扱った研究においても施設内の動物実験に関連した委員会等の承認を得た旨を記載すること。
5. 投稿論文に関して助成金を受けている場合は、その旨を記載すること。特に企業製品の評価に関する論文に関して助成金を受けている場合や、conflict of interest（利益相反）に関する事項があれば、必ずその旨を記載すること。
6. 原稿は、ワードプロセッサで A4 縦サイズとし、原則として電子媒体で編集室宛に E メール（後述）に添付して送付のこと。ファイル容量などの問題で E メール添付ができない場合などは、CD-R や USB メモリースティックなどの電子媒体に記録し、簡易書留便にて郵送すること。また事情により電子媒体による送付が困難な場合には、原本 1 部ならびに複写 2 部（図は原本を 3 部）を、簡易書留便にて郵送すること。
7. 論文のスタイルについて以下の項に従って記載すること。
 - (1) 投稿される電子媒体は、表題・抄録・本文・引用文献・図の説明を含む「テキスト」のファイル、「表」のファイル、図のファイルに分けること。それぞれ筆頭著者名と「テキスト」「表」「(パワーポイントであれば) 図」「(JPEG か TIFF であれば) 図」と図の番号（例：図 1）をファイル名とする。例：「大槻 本文」、「大槻 表」、「大槻 図 (パワーポイントの場合)」、「大槻 図 3 (JPEG 等の場合)」など。
 - (2) 「テキスト」ファイルはワードプロセッサで作成する。Microsoft word (Mac 版あるいは Windows 版) (2007、2010 版は避けること) が推奨されるが、doc、rtf 形式、もしくは PDF ファイルであれば受け付ける。なお、初ページよりページ番号を附し、査読等の円滑化のために行番号も附されていることが望まれる（ソフトのヘルプ機能などを参照）。
 - (3) 「テキスト」ファイルの第 1 ページには、和文による表題、著者、所属機関とその所在地、略題 (30 字以内、running title 用)、和文キーワード (5 語まで← (5) に合わせました)、対応責任 (別刷請求先) 著者 (氏名、所属、住所、電話、FAX 番号、E メールアドレス)、投稿希望範疇を記載のこと。複数の所属がある場合には、筆頭著者の所属先から順に 1)、2) …と著者名最後に上付きで表示し、所属機関欄には、1) ○□○ 大学△◇▽科□○□教室、2) …のように記載すること。
 - (4) 第 2 ページには、英文による表題、著者、所属機関、コレスポンディングオーサー (氏名、所属、住所、電話、FAX 番号、E メールアドレス) を記載のこと。複数の所属のある場合は、和文の記載法に準じること。
 - (5) 第 3 ページには、和文抄録 (400 字以内)、和文キーワード (5 項目以内) を掲載すること。抄録は「背景」「方法」「結果」などの区分を行わずに記載すること。
 - (6) 第 4 ページには、英文抄録 (250 words 以内)、和文キーワードに相当する英文 key words (5 項目以内) を掲載すること。区分を行わないことは和文と同様である。

- (7) 第5ページより本文を記載すること。行間は1.5～2行が望ましい。原則として本文は、原著論文の場合「緒言」「材料(もしくは対象)と方法」「結果」「考察」に区分すること。症例報告では「緒言」「症例」「考察」に準拠すること。必要があればその後に「結語」「謝辞」を加えること。
- (8) 外国語の固有名詞(人名、地名など)は原語とするが、日本語として一般化している外国語はカタカナ表記でも良い。薬品名などは一般名を使用し、商品名は括弧内にいれて記載し、[®]を上付きで附す。また商標登録されている様なものも、名称の最後にTMを上付きで附すことが望ましい。
- (9) 数字は算用数字を用い3桁ごとに「,」を付ける(例:12,500など)。ただし西暦などはこの限りではない。度量衡はCGS単位を用いること。
- (10) 本誌読者の専門領域は幅広いので、著者領域の専門用語であっても簡単な説明や略語についても留意すること。なお略語については、初出の場合にフルスペルを記した上で、略語を提示すること。和文抄録、英文抄録、本文のそれぞれでこれに従うこと。
- (11) 引用文献は論文に用いられたものだけを挙げ、引用番号は引用順による。引用箇所(文末の場合は句読点の前)に数字で表し上付き表示で、以下のように掲載する。その際に、複数著者の場合にも、全員を記載すること。雑誌名は略称を使用し、欧文誌の場合にはIndex Medicus採用の略称を用いること。雑誌略称の後の「.」は不要。初頁、終頁の数字は略さないこと。単行本の場合、日本で発行されたものは発行地は不要とする。以下に記載例を挙げるので参考とすること。

① 雑誌論文の場合

著者名: 題名. 雑誌名 巻: 初頁-終頁, 発行年

「例」

- 1) Aikawa H, Kinoue T, Sugioka Y, Watanabe T. : Tokai High Avoider rat (THA rat) that maintains as inborn high learning ability. *Jpn. J. Clin. Eco.* 12: 101-109, 2003
- 2) 角田和彦, 吉野博, 天野健太郎, 北條祥子, 武田篤, 石川哲. 近赤外線脳内酸素モニターによるシックハウス症候群の診断 ポリ袋を用いた化学物質の短時間吸入負荷試験と吸入負荷前後の起立試験. *臨床環境* 12: 15-26, 2003

② Epub の場合 (Epub ahead of print の場合)

著者名: 題名. 雑誌名 Epub にアップされた日付, [Epub ahead of print]

- 1) Maeda M, Nishimura Y, Hayashi H, Kumagai N, Chen Y, Murakami S, Miura Y, Hiratsuka JI, Kishimoto T, Otsuki T. Decreased CXCR3 Expression in CD4+ T Cells Exposed to Asbestos or Derived from Asbestos-exposed Patients. *Am J Respir Cell Mol Biol.* 2011 Feb 25. [Epub ahead of print]

③ Epub のみの刊行物

著者名: 題名. 雑誌名, Epub の番号

- 1) Lu J, Wang C, Zhou Z, Zhang Y, Cao T, Shi C, Chen Z, Chen L, Cai C, Fan X.: Immunogenicity and Protective Efficacy against Murine Tuberculosis of a Prime-Boost Regimen with BCG and a DNA Vaccine Expressing ESAT-6 and Ag85A Fusion Protein. *Clin. Dev. Immunol.* 2011; 2011: 617892.
- 2) Watanabe M, Ishimaru N, Ashrin MN, Arakaki R, Yamada A, Ichikawa T, Hayashi Y.: A Novel DC Therapy with Manipulation of MKK6 Gene on Nickel Allergy in Mice. *PLoS One.* 2011 Apr 22; 6 (4): e19017.

④ 単行本: 単一著者による本の章などの引用の場合

著者: 書名 (2版以降は版番号も)、出版社名、海外発刊の場合には出版社の都市名、国名. 発刊年, pp 初頁-終頁

「例」

- 1) Yoshihito Y : Cell membrane. Wiley-VCH Verlag, Weinheim, Germany. 2003, pp 27-46
- 2) 佐々木和信: 解剖学ワークブック. 東京、中外医学社. 2004, pp 10-50

⑤ 単行本: 編者のいる単行本の一部(章など)の引用の場合

著者: 章などの題名. 編者(編)もしくは(edあるいはeds): 書名、出版社名、海外発刊の場合には

出版社の都市名と国名、発刊年、pp 初頁－終頁

「例」

1) Hoyt WF, Daroff BB: Supranuclear disorders of ocular control systems in man. Bach-y-rita D, Collins CC, et al (eds): The control of eye movements. Academic Press, New York, U.S.A. 1971, pp175-235

2) 渡辺毅：視覚系における制御機構. 田崎京三、大山正、他（編）：視覚情報処理、朝倉書店. 1979、pp367-390

⑥ インターネット上に公開されている資料の場合

URL、アクセス確認日

3) <http://www.mhlw.go.jp/houdou/2004/02/h0227-1.html> (2011.5.9.)

- (12) 表は、「テキスト」や「図」とは別ファイルとする。上部に表のタイトルを付け、表の中の略語の説明や表自体の説明が必要な場合には、表下部に記載する。これら表のタイトル等と図の説明の言語は定めないが和文か英文に統一すること。エクセルやパワーポイントではなく、ワードプロセッサで作成されることを推奨する。なお表については印刷所にて一定の様式に調整することがあるので留意されたい。表の説明を別ファイルに記載する必要はない。また、通常、学術雑誌掲載の表の場合、各セルの線による囲いや縦線は用いない。最低限の横線のみを使用することが多い。この点にも留意の上作成されたい。
- (13) 図の説明（含：タイトル）は、図の中に「テキスト」ファイルの引用文献の後に、改頁の上、記載すること。
- (14) 図や写真等は、パワーポイント、JPEG、TIFF形式が望ましい。パワーポイントの場合、一つのスライドに一つの図を入れること。一つの図の中のパネル A、Bなどを別のスライドに分けずに投稿されたい。パワーポイントの場合には、スライド番号順に図1、2…と判断される。ファイル名は「図、著者名」で構わない。JPEG、TIFFなどのファイルの場合には、解像度に留意すること。またファイル名に図番号を入れること（例「図1、著者名」など）。縦長と横長の図が混在する場合には、パワーポイントが別ファイルとなると考えられる。その場合には、図の順番が分かるように別途説明を付けること。
8. 掲載された論文の著作権（copyright）、図表の著作権は、日本臨床環境医学会に帰属する。著者が別論文で使用する場合には、編集部連絡の上、別途論文には、「文献 OX を改変^{文献番号}」の様に記載し、本誌の論文を引用すること。
9. 原稿ファイル等は掲載後原則として返却しない。
10. 掲載料および別刷代金について。
- (1) 仕上がり頁数6頁以内は無料とし、超過した場合には、1頁につき15,000円を請求する。
 - (2) カラー図版費（製版および印刷）：著者負担
 - (3) 図版製作費（トレース・修正など）：実費
 - (4) 著者校正は原則として1回行うが、その際大幅な修正が生じた場合、その費用を請求する。
 - (5) 別刷代金：30部までは無料贈呈、それ以上は有料とし別途請求する。
11. 非営利団体（大学、研究所等）の情報リポジトリによる掲載論文の公開は、EメールもしくはFAXによる「臨床環境医学」編集部への請求と、それに対する編集部よりの許諾の連絡ののちに許可されるものとする。また、掲載後に速やかに電子媒体（掲載論文のPDFファイルなど）の供与を行って頂く。

連絡先

〒252-0373 神奈川県相模原市南区北里1-15-1

北里大学医療衛生学部公衆衛生学教室「臨床環境医学」編集部

Eメール：jsce@ahs.kitasato-u.ac.jp 電話/FAX 042-778-8073

担当 みのかわけい こ 養川慶子